

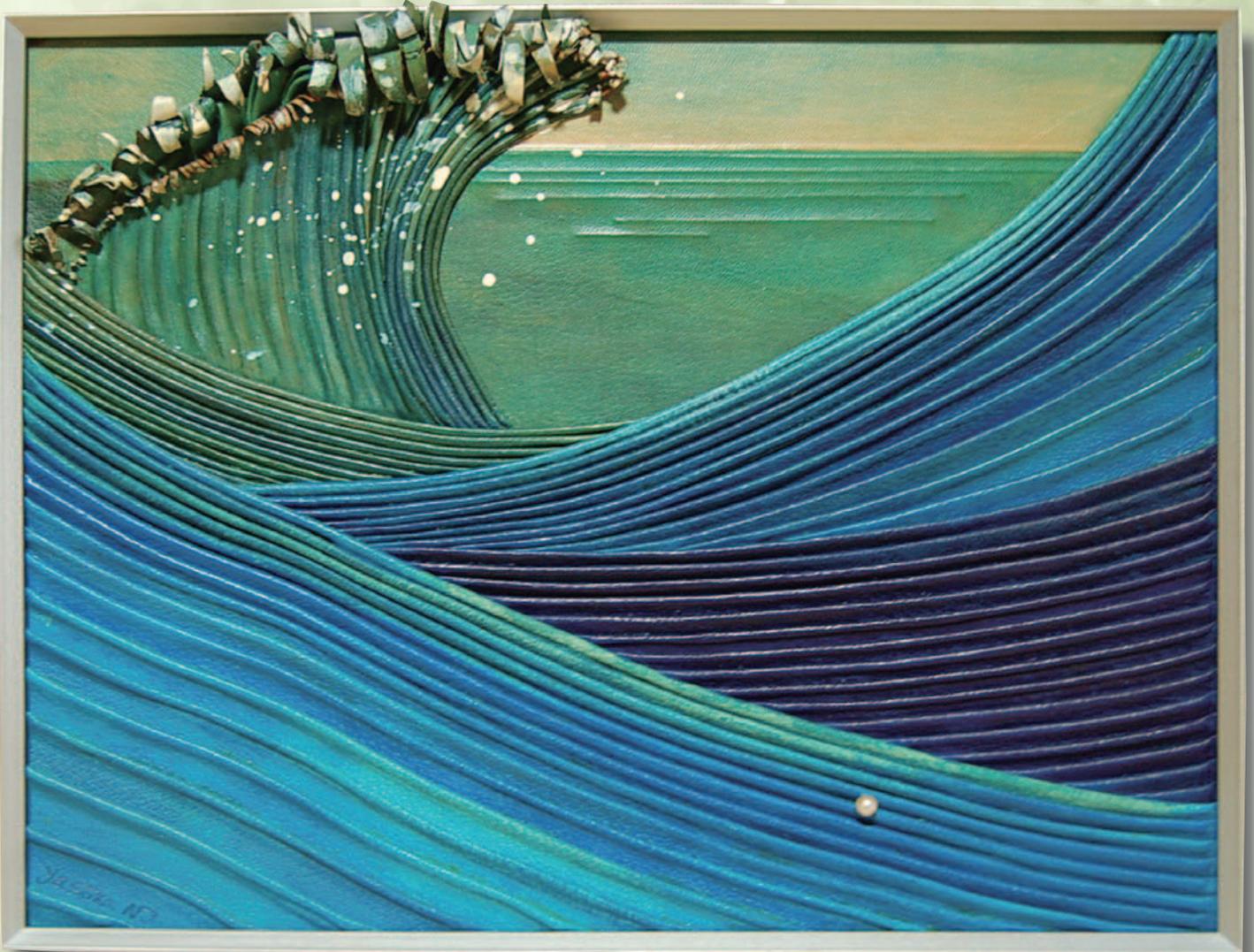
ふくしま

# 法人会ニュース

2009

12

めざします 企業の繁栄と社会への貢献



## Contents

平成21年度納税表彰……………	2
税だより……………	3
へーなるほど……………	3
税理士会コーナー……………	4
ちょっといっぶく……………	4
クリーンエネルギーと地方産業……	5
e-Tax サポーター委嘱状交付式……	6
カメラリポート……………	7
会員さんこんにちは(真柴功一さん)……	8

「波 象」 レザークラフト：新 関 康 子

※提供：福島中央青果卸売(株)  
元代表取締役会長 新 関 昌 一 様

祝 おめでとう  
ございます

## 納税表彰

平成二十一年度の納税表彰受賞者が発表され、本会の役員の方々も受賞された。

### 〈仙台国税局長表彰〉

(十一月五日・ホテル仙台プラザ)

## 山川 章氏

(株)山川印刷所  
法人会会長

### 〈福島税務署長表彰〉

(十一月十一日・福島グリーンパレス)

## 齋藤義博氏

(株)丸福織物  
法人会副会長

## 富田建一郎氏

(株)福島工務所  
法人会常任理事

## 最上 諭氏

(株)総合コンサルティング  
法人会常任理事



### 女性部会にも感謝状

租税教室や子ども税金クイズ大会の開催等、租税教育に対する貢献が認められ感謝状(記念楯)が佐藤福島税務署長より贈られた。



写真左から:佐藤福島税務署長、鎌田部会長  
齋藤副部会長

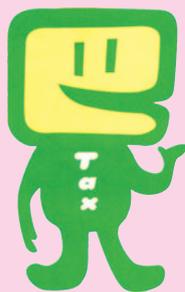
## 税務署からのお知らせ

～国税に関するご相談は「電話相談センター」をご利用ください～

国税に関する一般的なご相談は、「電話相談センター」でお答えしております。  
お問い合わせ先の電話番号は、次のとおりです。

### 《お問い合わせ先》

福島税務署 TEL 024-534-3121



音声案内にしたがって、「1」番を選択していただくと、「電話相談センター」につながります。

税務署からの照会やお尋ね又は職員へのご用の方は、「2」番を選択してください。

また、税について知りたいときは、いつでも手軽に税情報を入手できる「国税庁ホームページ (<http://www.nta.go.jp/>)」をご利用ください。

なお、面接による相談をご希望の方は、あらかじめ税務署に相談の日時を予約していただき、関係書類をご持参の上、税務署の担当部署へおいでいただくこととしております。

# 税だより

## 国税

所得税確定申告は、  
e-Taxをご利用ください

e-Taxをご利用いただくメリット

○国税庁ホームページから電子申告

国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」で作成したデータは、e-Tax(電子申告)を利用して提出することができます(確定申告書等作成コーナーは「確定申告特集ページ」からご利用ください。)

○最高5,000円の税額控除

平成21年分の所得税の確定申告を本人の電子署名及び電子証明書を付して、申告期限内にe-Taxで行うと、所得税額から最高5,000円の控除ができます(平成19年分又は平成20年分の確定申告でこの控除を受けた方は、受けられません。)

○添付書類を提出省略

所得税の確定申告をe-Taxで行う場合、医療費の領収書や源泉徴収票等は、その記載内容を入力して送信することにより、提出又は提示を省略することができます(確定申告期限から3年間、書類の提出

又は提示を求められることがあります。)

○還付金がスピーディー

e-Taxで申告された還付申告は早期処理しています(3週間程度に短縮。)

○24時間いつでも利用可能

所得税の確定申告期間中は、24時間e-Taxの利用が可能です。

「e-Tax」をご利用いただく前に  
「お早めにご準備ください」

e-Taxの利用に際しては、電子証明書の取得(手数料が必要です)、ICカードリーダーデータの購入などの事前準備が必要です。

電子証明書を既に取得されている方は、電子証明書の有効期限切れにご注意ください。

もっと詳しい情報は

e-Taxホームページ

(<http://www.e-tax.nta.go.jp/>)

利用開始の手続、ご利用時間、パソコンの環境、e-Taxソフトの操作方法、よくある質問(Q&A)など、e-Taxに関する最新の情報についてお知らせしていますので、ご利用前に是非ご覧ください。



歲月、人を待たず

という古い言葉があります。百年にして起きた大不況、五十年ぶりの政権交替などまことに目まぐるしかったこの一年、ふりかえってみると、日本歴史上かつてなかった大事態なのですが、地球二万年の悠久の時空から見ればまこと一瞬のことにしか過ぎないようで、今年もまたいつの間にか過ぎ行く『時』の速さを感じ、しみみと感じる季節、師走“を

## 村井幸三さんの へーなるほど



県内最古の喜多方熊野神社梵鐘

迎えました。

その密やかに足音もなく過ぎていく「時」が、チラリと私たちにその存在を感じさせるのは、大晦日の真夜中、遠く近く、響いてくる除夜の鐘の音ではないでしょうか。目を閉じ耳をすませば、思いは大宇宙の彼方へとひろがり、生きていることの喜びをしみじみと感じさせる、その微妙な響きこそ時の足音と思いがから聞き入るのが、毎年の大晦日の夜

の做いです。

夜空をきって鳴り響く鐘の数は百八つ。

この慣習が中国伝来か、我が国のお寺さまがはじめたものかはつきりしません。しかし、いづれにしても寺の修行の合図に鐘や木板を多用する禅宗から始まったことはまず間違いないさそうです。

百八という数について、仏教では人のもつ目、耳、鼻、舌、身、心の六つの感覚から発する欲望が三十六、それが過去現在未来にかかるので百八、あるいは十二月の月と彼岸、冬至などの二十四気、その気をさらに細かに分けた七十二候の合計などともっともらしく説明しますが、いづれも後世のお坊さん方が考え出したことで論拠はありません。しかし、それはともかくとして、煩惱つまり心身を苦しめ悩ます精神作用によって、この一年の間に自然とひきおこしたあやまちが、鐘の一突きごとに消えてゆく、そして身も心も清らかに新年を迎えるという発想の素晴らしさ、日本人の豊かな感性をしみじみと感じる行事ではありませんか。

一年間、面白くもない雑談とのお付き合い、誠にありがとうございました。来る年のご多幸を心からお祈り致します。

# 「今更ながら消費税でいそいそ」

今年度予算国税収入47兆8、155億円のうち、21・2%にあたる10兆1、300億円を占める消費税。消費税は、今から二十年前の平成元年4月に導入されました。税率は国税のみの3%。その後平成9年4月に、国税4%+地方税1%、あわせて5%という現行の税率へ引き上げられました。平成16年4月には、事業者免税点が3、000万円から1、000万円に引き下げになりました。

今さらですが、消費税の納付税額ほどのようにして計算するのをご存知でしょうか？大雑把に言ってしまうと、売上等に係る預かった消費税額から、仕入や経費等に係る支払った消費税額を差し引いた残りが、納付する消費税額となります。支払った消費税額の計算方法には、原則課税と簡易課税との2つの方法があります。簡易課税の選択・適用にはいくつかの要件があります。計算方法の選択によっては、納付税額が変わってくる場合もあります。（詳しくは税理士等へおたずねください。）

では、消費税の負担者と納税者の関係はどのようになっているのでしょうか。法人税や申告所得税は、負担者と

納税者は同じです。消費税の場合、負担者は消費者であり、納税者は事業者であり、両者は同じではありません。ただ事業者は、仕入や経費等の支払いにおいては消費者になり、負担者の面も併せ持つとも言えます。

国税庁の資料（※）によれば、平成20年度の新規滞納税額8、988億円のうちに消費税が占める割合は、45・8%、118億円と大きな割合になっていきます。平成10年度から45%前後で推移しています。滞納整理中のものの額のうち消費税額が占める割合は29・2%。平成元年度から増加をたどっています。

先の衆議院議員選挙前、「経済の動向を見て、2011年に消費税率の引き上げを行いたい」と前首相は言っていました。一方、民主党は「4年間は税率の引き上げはしないが、消費税についての議論はおこなっていく」と言っていました。消費税導入から二十年。今後消費税はどのように変わっていくのでしょうか。

注目していきたいと思えます。

※国税庁HP「平成20年度租税滞納状況について」より。

東北税理士会福島支部 阿部寿子

ちよっと  
いっぷく



広報委員

(有)菅野地所 加納 武志

「ねんきん」

先日、新聞記事の社会保障費約91兆円のうち年金だけで、約45兆円近くになっている現実が脅かされました。45兆といえば、国家予算の半分近くになります。政権与党では、最低賃金の引き上げ等により所得格差を盛んに訴えているのだが、年金格差はあまり議論されていません。所得格差はある程度本人の努力により是正される部分があるが、年金については、たとえばサラリーマンは、どんなに個人が頑張り努力しても自分の力ではどうにもできない企業等の倒産や統廃合によりその人の年金が大きく狂ってしまう事があります。自営業・サラリーマン・公務員・議員など職業により同じ個人負担金でも、受け取る年金の額は大

きく違います。たとえば議員は、議員年金がつかます。それも国民・厚生年金では考えられないほど短い期間で他の年金より多額の年金がもらえます。自分で選んだ職業とはいえ、職業の差でこんなに年金格差があつてよいのでしょうか？年金については最低年金の引き上げを消費税の増税で少しは圧縮しようとしています。議論されるところです。所得格差の是正や事業の見直しによる民間の事業を削る前に、最も優遇されている議員年金を何年もかけて廃止するので無く、直ちに廃止して他の年金との格差をなくし、最低年金額を引きあげ老後を安心して暮らせる社会を考えて欲しいものです。

また、この約45兆円のお金が停滞することなく消費など循環資金に回れば、消費税・法人税・所得税等の税収が上がり経済の好循環を生むのではないのでしょうか？たとえば一定以上の年金については期限付きの金券で配るとか？この莫大な資金を循環することを第一に考えなくてはならないと思えます。このままでは年金は削られていくのには目に見えています。削るより年金という莫大なお金の流動性を考えて、日本中に停滞しているお金の循環を最優先に考えて欲しいものです。



会員交流視察研修旅行  
**「近代鉱山都市・小坂と  
 十和田・奥入瀬の旅」**

会員交流視察研修旅行は、去る10月23日（金）～24日（土）の2日間、15名の参加で開催されました。

一日目は、康楽館・小坂鉱山事務所見学・あきたエコタウンセンター（小坂地区基本コース）見学でした。

あきたエコタウンセンター見学コースでは、はじめにエコセンター内のパネル展示室や研修室で概要説明を受け、実際にリサイクル原料ヤード・誓いの記念碑・グリーンフィル小坂・オートリサイクル秋田などの施設の見学をしました。原料ヤードでは使用済みになった電気・電子部品が山積みになされ、高度な技術を活かして多くの種類の金属に分けられ、再利用されます。また、オートリサイクル秋田では、車のリサイクル工程として機械ではなく人の手でパーツごとに振り分けられています。秋田県北部を中心としたこれらの施設は、これまで培った技術をもとに資源リサイクルを産業の

柱に、世界でも活躍する企業が増えてきているという事です。

二日目は、十和田湖遊覧船・奥入瀬溪流トレッキングのコースでした。

奥入瀬溪流トレッキングは、子ノ口から白糸の滝までの約2・7kmを1時間かけて歩きました。紅葉もちょうど見頃で銚子大滝や清流など大自然を満喫し、心地よい汗を流しました。

一泊二日と短い行程ではありませんでしたが、天気にも恵まれとても充実した二日間でした。



”あきたエコタウンセンターにて“

会員企業がe-Taxサポーターに

十一月十日委嘱状交付式

福島税務署では、ITを利用した申告・納税を推進し、当会もその普及に協力してきた。この度、税務署としては全国で初めての推進事業として「e-Taxやつてみっペプロジェクト」を立ち上げ、その協力企業を募集していたが当会会員企業九社が名乗りを上げ、十一月十日に委嘱を受けた。

（企業名は次のとおり）

（株）川瀬酒販、こころネット（株）、東北コピー販売（株）、（株）樋口屋商店、福島ネオ工業（株）、（株）福島丸公、福島ヤクルト販売（株）、（株）丸福織物、（株）山川印刷所

このプロジェクトは、自社のパソコンで、従業員等に自己研鑽の機会を与え、又、確定申告をするための

環境を用意するもので、個人の申告の利用拡大に大いに繋がるものと期待される。委嘱期間は、来年四月三十日まで。



PETがん検診・人間ドックのご案内

会員サービスの一環として、「PETがん検診」「人間ドック」が財団法人脳神経疾患研究所との提携により受診しやすくなりました。

ご本人はもとより企業経営のためにも検診を受けることで安心を得られますので、是非ご利用下さい。

詳しくは、福島法人会のホームページ  
<http://www.13.ocn.ne.jp/fukuko> をご覧下さい。

# カメラリポート Camera Report



- ▲ 21・11・4  
**国見支部役員会**  
 ・会員拡大について  
 ・大型保障制度拡大について

”福島第四中学校にて“



- ▲ 21・11・5  
**女性部会社会貢献活動**  
 フォーラムディスカッション2009  
 1部:「魔法の授業」  
 2部:講演会「なりたい自分になるために」  
 講師:マツダミヒロ氏



- ▲ 21・11・6  
**桑折支部役員会**  
 ・会員拡大について  
 ・大型保障制度拡大について



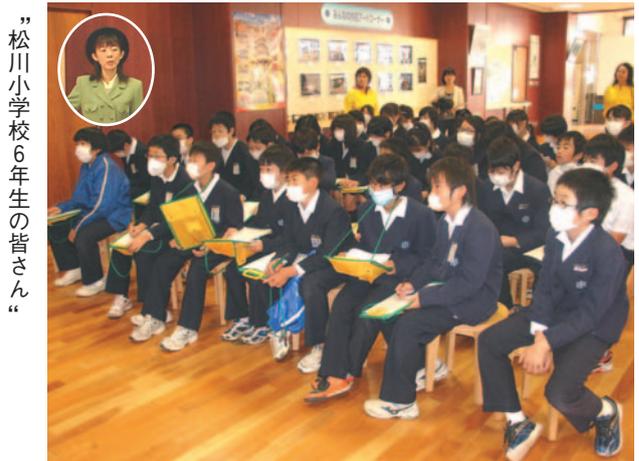
- ▲ 21・11・6  
**第23回法人会全国青年の集い「岩手大会」**

”福島から参加の部会員“



”福島の部会員の皆さん“

- ▲ 21・10・21  
**県女性連協第10回会員研修会「福島大会」**



”松川小学校6年生の皆さん“

- ▲ 21・10・29  
**女性部会移動租税教室**  
 (摺上川ダムにおいて)

- ▼ 21・11・9



**平成21年度第4回広報委員会**

- ・ふくしま法人会ニュース10・11月号の反省について
- ・ふくしま法人会ニュース12月号編集方針(案)について
- ・ふくしま法人会ニュース平成22年度編集方針(案)について
- ・年賀広告について
- ・ホームページについて

# 心算は



株式会社 マルセイ  
代表取締役会長  
**真柴 功一氏**  
(福島市北矢野目字樋越1)  
TEL (024) 553-3171

えと文・やまひろし

「マルセイ」は中央卸売市場の中にあ  
り競売の行われる場所の二階にある。  
真柴功一会長は長年青果の仕事をやっ  
てきただけに、その苦労が顔に現れてい  
るような気がする。だから福島中央青果  
卸売協同組合の理事長も務めている。  
昔の青果市場は浜田町にあった。昭  
和四十年、県条例で問屋が合併した時  
マルセイを設立、四十七年に農林省の  
指導で現在の卸売団地に移転した。  
会長は昭和十三年岡部に生まれ、岡  
山小から三中に通ったが、その頃から  
家業の青果卸の仕事を手伝った。野菜  
をリヤカーに積んで浜田町の市場まで  
運んでいくのである。三中の同級生に  
見つかるのと恥ずかしいので、顔を伏せ  
てリヤカーを引いていったという。  
小学二年の時、太平洋戦争が終結。ど  
の家も貧しく当時は子供たちも必死で  
家の仕事を手伝っていた。岡部は野菜  
の産地で父の善三郎氏は仲買卸を始め  
ており、次男の功一氏も当然のように  
手伝っていたのである。

三中を出ると県立の第二高校に入り  
昼は仕事をし、夜は高校で勉強をした。  
昭和三十二年に卒業すると、伊勢一  
という青果問屋で修行をした。東北  
北海道地区への出荷を担当し、荷造り  
をすると駅に運んだ。当時はトラック  
便が無く、国鉄の貨車輸送に頼るしか  
なかった。  
合併の時、父は卸売会社(株)へ、功一氏  
は(有)へ専務として入社、のち社長となる。  
現在の中央卸売市場に移転してから  
はもう三十七年になるが、平成十五年、  
社長を身内の菊田次能氏に譲り、真柴  
氏は会長に就任した。  
「時代も変わりましたねえ。最初八名ほ  
どの社員で仕事をやってきましたが現  
在は六十人位で仕事をこなしています。  
昔は福島の八百屋さんが来て市場を  
賑わしていました。いまは量販店が  
多くなってきたでしょう。商売のや  
りかたもまったく変わってしまいまし  
た。それに取引先は全国的でしょう。  
北海道から九州まで実に広範囲になっ

てきました。ですから、人づくりとい  
うか、管理者養成が大事になってきま  
したので十五年位前からその研修に力  
を入れてきました」  
「会社の方針などは」  
「格好をつけるようですが、社訓とし  
て『顧客の満足度、社員の満足度、使  
命の満足度を果たす』ということに掲  
げているんですよ」  
会長室の壁にこの社訓が額に入って  
飾られてあり、そのほかに有名人の色紙  
がずらりと並んでいる。五年ごとの節目  
を大切に社員や株主、取引先に感謝の意  
を込めて講演会や研修会を行っている。  
「わたし自身、旅行やゴルフが趣味な  
と、謙虚な会長が笑った。



1年の総括をする時期ではあります  
が、ちよつと先の話をしたいと思ひます。  
「クラウドコンピューティング(以下  
クラウド)」という言葉聞いたことが  
あるだろうか?クラウドとは、自社にあ  
るサーバではなくインターネット上に  
あるサーバに業務処理等をしてもらう  
システム形態です。(ASPとの違いを  
説明すると長くなりますので、またの機  
会に)

## おとぎ話

インターネットに接続さえすれば、  
様々なサービスが利用できる時代が近づ  
いている訳です。携帯電話が会社の業務  
の中心になり、社員にパソコンではなく  
携帯電話を支給するようになるかもしれ  
ません。経営者側から考えると、ITへ  
のコスト削減が出来、短時間高生産へ仕  
事を変換できる重要な1つの手段、ツール  
になるでしょう。数年前のIT革命か  
ら、次のステップに入りつつあります。  
情報が錯綜する中で、自分達に合った確  
かな情報をキヤッチし、業務に活かすこ  
とに改めて取り組む必要があるのではな  
いでしょうか?  
2009年も、あとわずかとなりました。  
「あつという間の1年」といっても同  
じようなことを思っている訳ですが、子  
どもの頃から24時間365日は変わっ  
ていないんです。何が変わって早く感じ  
るようになったのか?と思うと、楽しみ  
にしていることが減ったからと思いま  
した。子どもの頃は、正月から誕生日、  
運動会、クリスマスなど待ち遠しかった  
ものが歳をとるにつれて薄れてしまっ  
ているんだなと...気持ちの部分が大き  
いとは思いますが、日々、楽しめる仕事  
をしたいですね。  
来年もふくしま法人会ニュースを宜  
しくお願い申し上げます。  
良いお年をお迎えください。(高橋記)